

# 事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21957
事業名	文化芸術振興補助費					
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課				
	課長名	木戸 拓史	担当者名	小川 桜	電話番号	011-211-2261
施策名	主	将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	市内の文化芸術団体及び個人に対し、財政的な支援を行う。			
		長期	市民主体の文化交流活動などを支援し、活性化させることにより、本市における文化芸術の振興を図る。			
	取組内容	<p>本市の文化芸術振興に寄与する活動等を行う団体及び個人への助成。</p> <p>①助成金の交付 文化芸術振興基金(以下「基金」という。)の運用益について、文化芸術振興助成(奨励に資する新人育成活動及び各種文化交流活動を行う文化芸術団体及び個人への助成)として、当該活動に係る対象経費の一部(対象経費の2分の1を限度とする)を交付する。</p> <p>②市民交流プラザが実施する地元支援プロジェクトへの補助を行う。</p> <p>③令和4年度からの新たな助成制度開始に向けて、制度構築等を行う。</p>				
実施結果	<p>①新人育成活動14件に対し3,758千円、国際文化交流活動2件に対し442千円の助成を行った。</p> <p>②令和4年2月に行われた「hitaruバレープロジェクト プレ公演『白鳥の湖』」に対し5,000千円の補助を行った。本公演は2日間で延べ3,580人の入場者数を記録した。</p> <p>③令和4年度からの新助成制度開始に向けて、札幌文化芸術交流センターSCARTSにおいて助成事業の募集・審査・採択を行った。</p>					
事業実施における工夫点	令和4年度からの新助成制度開始に向けて、より有効な助成制度となるよう、市内で芸術文化活動を行う有識者にヒアリングを行った。					
対象者	文化芸術団体及び個人	開始	令和3年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例、札幌市文化芸術振興助成金の交付に関する要綱					
他都市の状況	他都市においても、同様の助成制度を設けていることが多い。					

◎事業費

(単位:千円)

		令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費		6,299	9,200	7,402	11,000
うち特定財源		6,299	9,200	4,945	10,403
人工		0.3	0.2	0.2	0.2
人件費		2,160	1,080	1,080	1,080
計(事業費+人件費)		8,459	10,280	8,482	12,080
事業費の内訳	令和3年度決算	助成金交付額:2,402千円 地元応援プロジェクトへの補助:5,000千円			
	令和4年度予算	助成金交付額:6,000千円 地元応援プロジェクトへの補助:5,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	助成事業申請件数		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	19	16	16	16
活動指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1	指標名	助成事業件数		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	9	16	16	16
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	令和3年度は、助成事業件数の目標件数(16件)を達成した。新型コロナウイルス感染症の影響により結果的に中止となった事業もあったものの、令和4年度実施事業についても54件の応募があり16件の助成が決定していることから、安定した成果が認められる。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	本助成金は、基金の運用益のみを原資としており、その範囲内で助成を行っていることから、現状の事業規模は適切である。		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	B	令和4年度実施事業(令和3年度中に採択)より、助成の実施主体を市から札幌文化芸術交流センターSCARTSに移行したため、助成効果について今後の検証を要する。		
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	B	令和3年度においては、申請があった団体及び個人全てに助成を行うことができたが(新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業を除く)、助成原資は基金運用益であり、昨今の超低金利環境の下で基金運用益は減少傾向にあるから、交付決定額は申請額の約6割に留まっており、申請者の希望には十分込えられていない。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	令和4年度より札幌文化芸術交流センターSCARTSが主体となり助成を実施していることから、助成効果の検証と、次年度以降の見直し事項の検討を要する。			
前回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	次年度以降の審査基準や募集要項を見直すために、審査委員とSCARTSによる意見交換会が実施された。		見直し効果額 (前年度)	0千円
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	令和3年度は、助成事業目標件数である16件に到達した。また、新助成制度を開始し、令和4年度実施事業については目標件数16件を上回る54件の応募があった。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="radio"/> 改善 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 新助成制度の効果検証を行い、次年度以降の助成効果向上に向けて検討を行う。		
	予算	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 助成金原資は基金運用益に左右されるものの、申請者の希望に込えられるよう、現状の予算規模は必要である。		見直し効果額 0千円